昭和五十七年六月十二日、お茶の水女子大学名誉教授・文学博士　網祐次先生が逝去された。享年八十四歳。

先生は、明治三十一年二月石川県に生まれ、同県七尾中等学校を卒業後、広島高等師範学校文科第一部に学び、ついで京都帝国大学文学部文学科に進んで昭和二年同学科を卒業、その後、松本高等学校教授、広島高等師範学校教授を経て、昭和八年十二月東京女子高等師範学校教授に就任された。戦後の学制改革により、昭和二十四年にお茶の水女子大学が発足すると、新設の中国文学科の主任として学科の創設整備に尽力、わが国女子大学における初の中国文学科の基礎をつくられた。以来、昭和三十八年三月の停年退官に至るまで学科主任として営営努力され、教育と研究に精根を傾けられた。東京女高師の時から数えれば、本学で教鞭をとられた期間は三十年の長きにわたる。

先生の学問は、中国六朝文学の研究を主とする。『中国中世文学研究――南斉永明時代を中心として』（新樹社昭和三十五年）はその集大成であり、同研究により昭和三十五年京都大学より文学博士の学位を授与された。他に『文選』関係の著述等、六朝文学に関する論著は多数にのぼる。

お茶の水女子大学退官後、跡見学園短期大学教授、二松学舎大学講師等を歴任されたが、晩年は病牀に臥せられることが多く、さらに白内障に苦しまれた。一昨年、本学会発足の当時すでに先生の健康はすぐれず、昨年四月本誌創刊号が出たのを追うかのように永眠された。先生によって創設され、ようやくにしてその成果の一端を学界に問うまでに成長した本学科並びに本学会の現状を十分に見ていただけなかったことがわれわれの心残りであるが、先生御在世のうちに報告しえたことがせめてもの喜びである。

温厚篤実な先生のお人柄と学恩をしのびつつ、つつしんで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申しげる。

昭和五十八年二月十五日

お茶の水女子大学中国文学会